

ヨード造影剤CT検査説明書

患者ID _____

患者氏名 _____ 様

生年月日 明治・大
正昭和・
平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 歳

説明日 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

以下のとおりに説明しました。

病院名 _____

医師 _____ 印

1.ヨード造影剤使用の目的

CT検査ではヨード造影剤を使用すると、使用しない単純CTよりも血流情報を含め、たくさんの情報を得ることができ、診断の精度が向上します。尿路造影や胆道造影ではヨード造影剤が尿路や胆道に排泄されたところを撮影し、これらの形態を評価することもできます。

2.副作用

ヨード造影剤を使用するエックス線検査は、多くの場合、副作用はありませんが、病状や体質によっては吐き気や発疹などの過敏症状が起こることがあります(約5%)。まれですが、生命に関わるような重篤な副作用(血圧低下・呼吸困難など)が起こる可能性もあります(0.1%未満)。

また検査終了後に時間を置いて(検査後数日以内まで)発生する遅発型の副作用も報告されています。これには頭痛、発疹、掻痒、発熱、むかつき、めまい、胸苦しさなどがあります。

当院では、近年報告された「絶食がより副作用の出現確率を高める」といういくつかの論文*に基づき、2008年12月より、軽食を摂取して造影CT・MR検査を実施する形式に変更しました。

*大脇和彦:ヨード造影剤注入時の嘔気と食餌の関係について.日本医放会誌54:6

★ヨードまたはヨード造影剤に過敏症の既往歴のある方、重篤な甲状腺疾患のある方は検査できません。また、気管支喘息・重篤な心・肝・腎疾患・急性膵炎・マクログロブリン血症・多発性骨髄腫・テタニー・褐色細胞腫の方に対しては、ヨード造影剤は原則的には使用せず、特に必要な場合にのみ使用する事とされています。これらの疾患がある場合は主治医と検査の必要性につき、よく御相談ください。